

# 2000 年伊豆諸島北部地震火山活動時の地殻変動から推定される伊豆半島北部境界

## Northern boundary of the Izu block estimated from the crustal deformation at the 2000 seismo-volcanic event

# 吉田 明夫[1]; 小林 昭夫[2]

# Akio Yoshida[1]; Akio Kobayashi[2]

[1] 地磁気観測所; [2] 気象研

[1] Magnetic Observatory; [2] MRI

三宅島での火山噴火とその西方海域へのダイク貫入、そして同域での大規模な群発地震を発生させた 2000 年伊豆諸島北部地震火山活動は、それに伴ってまた房総半島から東海地方西部までに及ぶ広域で顕著な地殻変動を引き起こした。この地殻変動については Nishimura et al.(2001)、小沢・他(2001)、小林・他(2003)等によって解析されており、主な変動源は三宅島から西方海域へのダイク貫入であるとしてほぼ説明される。しかし、伊豆半島の動きはその周辺地域と必ずしも連続的につながっていないように見える。このことは、2000 年伊豆諸島北部地震火山活動の際の伊豆半島周辺の地殻変動を詳しく調べれば、伊豆ブロックの存在とその境界についての知見が得られるかもしれないという期待を抱かせる。このような考えから、伊豆半島内の GPS 観測点と東海から関東までの GPS 観測点とを結ぶ多数の側線について水辺変位量を求め、それをもとに空間的な変位分布を計算してみた。その結果を見ると、伊豆ブロックの北部境界として、杉村(1972)が推定したような駿河湾と相模湾を素直に結ぶ線ではなく、駿河トラフから北上して富士山の南山麓を東に横切った後、ほぼ丹那断層に相当するところを南下して大室山付近から相模湾に抜ける線が見えてきた。2000 年伊豆諸島北部地震火山活動の際の地殻変動に認められるこの境界線は、吉田・他(1979)が 25 年前に伊豆ブロックの北部境界として提案したところとおおよそ一致している。